

県立吉野公園等管理で募集

来月18日から受付

県は29日付けで、県立吉野公園等の管理に係る指定管理者募集要綱を告示した。申請期間は8月18日から9月2日まで(8月10日にそれぞれ現地説明会を開催)。9月に1次審査(書類審査)、10月に2次審査(1次審査通過者を対象としたヒアリング等)を行い、11月に選定結果を通知する。

対象施設は、県立吉野公園(鹿児島市吉野町、面積30・9ha)、県立石橋記念公園(同浜町、同1・8ha)、県立谷山緑地(同東開町、同14・8ha)。指定予定期間は、18年4月1日から23年3月31日まで(5年間)。

指定管理者が行う業務

県保健福祉部

なのはな館 近く募集開始

県保健福祉部は29日、18年度から導入する指定管理者制度に係る第1回候補者選定委員会を開き、各選定基準や募集要項(案)等について審議。所管7施設のうち、公募で指定管理者を選定する予定のふれあいプラザなどは、近く募集を開始する意向を明らかにした。

公募対象施設は、ふれあいプラザなのはな館(指宿市)、視聴覚障害者情報センター(鹿児島市)、障害者自立交流センター(同)の3施設。

平成14年2月に民事再生法の適用を申請した小牧建設(小牧隆社長、鹿児島市)は8日付けで、鹿児島地方裁判所から民事再生手続きの終結決定を受けた。3年5カ月での終結決定により、裁判所等からの管理を離れ独自の道をスタートさせた。

同社の平成14年、民事再生法時の負債総額は約98億円で、手続き後は約9億5千万円に推移、15年

小牧建設が再スタート

から69人に削減したほか、営業所なども12カ所から2カ所に減らす改革を実行、完工高も15・16年と約50億円前後と順調に推移、15年

来月8日、九地整と意見交換会

建設コンサルタンツ協会(石井弓夫会長)は8月8日午後3時から、福岡市の博多全日空ホテルで九州地方整備局との意見交換会を開く。

来月12日、セミナー

特定非営利活動法人かごしまNPO支援センター(小浜洋一理事長)は8月12日午後1時30分から鹿児島市の県青少年会館で開く「第2回指定管理者制度セミナー」の参加者を募集する。受講料3000円。定員は約20人(定員になり次第、応募締め切り)。

申し込み・問い合わせは、かごしまNPO支援センター(☎099・286・0111)まで。

地材かごしま材の家づくりセミナー

9月から12講座開催

県は、9月から来年1月までの全6回(12講座)の日程で行う「地材地建・かごしま材の家づくりセミナー」の受講者を募集する。締め切りは8月26日まで。受講無料。定員は80人。希望者は、所定の応募用紙に必要事項を記入の上、(財)県住宅・建築総合センターまで申し込むこと。

対象者は、県内在住の住宅建設や設計、製材業、木材販売業等に従事する者。セミナーでは、各講習や現地研修を通して、県産材や木造建築に関する知識等を広く学ぶ。講習会場は鹿児島市の県民交流センター。

カリキュラム(担当講師)は次の通り。

▽9月9日①木材関連業と住宅関連業との連携の意義(遠藤日雄鹿児島大学農学部教授)

②本県の森林及び木材流通の現状(川原啓一郎県林業振興課かごしま材振興企画監)

▽10月18日①乾燥材の意義・乾燥方法(黒田尚宏(独)森林総合研究所加工技術研究領域長) ②木材乾燥の必要

性(河崎弥生岡山県木材加工技術センター専門研究員) ③かごしま材取扱店認証制度について(県木造住宅推進協議会)

▽10月19日①県内木材加工施設の現地研修

▽11月15日①木造住宅の設計(佐藤雅俊東京大学農学部助教授) ②木材の防虫処理(内田信也日本木材防腐工業組合技術委員)

▽12月6日①木造住宅のリフォームにおける地域材利用と木質内装材(趙海光(株)ぐらん21代表取締役) ②顔の見える木材でのかごしまネットワークの事例紹介(野辺公一(株)オプコード研究所所長)

▽18年1月17日①気候風土に適した木造住宅のあり方(須貝高福岡大学工学部教授) ②住宅に地域材を使う意義(有馬孝禮宮崎県木材利用技術センター所長)

問い合わせは、県林業振興課木材振興係(☎099・286・3336) または(財)県住宅・建築総合センター企画課(☎099・224・4543)まで。

日本生態系協会

バイオーム管理士資格試験

申込み締切り迫る

日本生態系協会は9月25日、17年度バイオーム管理士「同施工管理

来月23日まで受付

地盤工学会九州支部は8月30日午後3時から、福岡市の福岡ガーデンパレスで17年度第1回特別講演会を開く。参加無料で定員100人。申し込みは23日まで。

当日は、龍岡文夫東京理科大学教授が「補強土工法と耐震設計―被害土構造物の強化復旧と新設土構造物の合理化のために―」との題目で講演する。

急性心筋梗塞の緊急時には

急性心筋梗塞の発作の中でも、心肺蘇生術が行わなければならない緊急時があり、その時に対応できるAEDという機械が備えつけられている場所が増えていきます。



監修 たばな循環器科いよま病院 副院長 橋裕紀先生

私の健康手帳 第17回 心臓病⑤